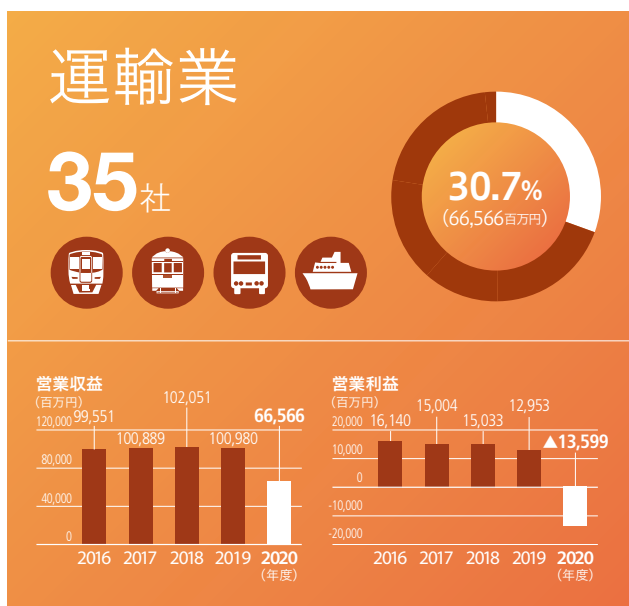




事業概要

鉄道事業●南海電鉄は、なんばから泉州・和歌山を結ぶ南海本線と世界遺産・高野山を結ぶ高野線の2本の基幹路線を軸に、関西国際空港への重要なアクセスである空港線など各路線で、安全・快適な輸送サービスを提供しています。また、

2014年にグループ化した泉北高速鉄道の路線が、南海電鉄との共同駅である中百舌鳥駅を起点として泉北ニュータウンを縦走しています。

軌道事業●阪堺電気軌道が阪堺線と上町線の2路線を運行し、地域の足として親しまれています。

バス事業●南海バスをはじめ、和歌山バス、南海りんかんバス、熊野御坊南海バス、徳島バスなどが地域に根差した路線を運行しています。さらに、関西空港交通をはじめとする各社が、関西国際空港と主要都市を結ぶリムジンバス事業を展開しています。

フェリー事業●南海フェリーが和歌山港と徳島港間を結ぶフェリーを運航して、近畿と四国を結ぶ快適な海上アクセスを提供しています。

経営成績

新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛の拡がりや、インバウンド需要の消失などから輸送人員が減少し、営業収益は665億66百万円(前期比34.1%減)となりました。また当期は遺憾ながら135億99百万円の営業損失(前期は営業利益129億53百万円)となりました。





「高野山1万人ご招待キャンペーン」を実施

世界遺産・高野山と高野山麓エリアへの来訪促進のため、沿線自治体、関係する団体・企業などと協働して、2020年9月から来訪促進企画「高野の休日」を実施。その一環として、高野町と共同で1万人を高野山へ無料招待するキャンペーンを実施しました。



高野山ケーブルカーを 再生可能エネルギー100%で運行開始

南海高野線の極楽橋駅と高野山駅を結ぶ高野山ケーブルカーでは、2021年6月から動力源を太陽光や水力、風力発電などの再生可能エネルギーに切り替えて運行を開始しました。国内のケーブルカーで初となる取り組みです。年間でのCO₂排出削減量は約60トンになります。



改札機における「Visaのタッチ決済」・ 「QRコード」利用の実証実験を開始

2021年4月から、当社16駅に「Visaのタッチ決済」並びにQRコードによる「南海デジタルチケット」対応の専用改札機を設置し、お客さまにご利用いただく実証実験を開始しました。駅改札機でのVisaのタッチ決済による運賃支払いは国内初、QRコードを利用した改札の入出場は当社初の取り組みです。



南海アプリ 「席ゆずりあいアシスト」機能サービス開始

本機能は、電車内で座席を必要とされているお客さまと、席をゆずってもよいと考えているお客さまとの意思疎通を「南海アプリ」を通じて手助けする機能です。また、スマートフォンなどの端末の画面を見せ合うことでお互いの意思を確認するため、会話を控えたままでの意思疎通が可能です。

担当役員より



常務執行役員
梶谷 知志

安全・安心で良質な交通サービスの提供を使命に、 お客さまに支持される「正しい事業」を展開していきます

安全・安心で良質な交通サービスを提供することは、鉄道事業の最大の使命です。コロナ禍にあった2020年度も、社会インフラとして運行継続することを第一に、お客さまと社員との感染防止に最大限の注意を払い、安全輸送に取り組みました。

2020年度で終えた中期経営計画「共創136計画」でも、「安全・安心で良質な交通サービスの提供」を基本方針とし、その実現に努めました。激甚化する自然災害への対応としては、高架橋柱や駅の耐震補強工事、河川橋梁の洗掘防止対策、倒木危険樹木の処理、橋梁異状検知装置の設置や老朽化した機器の更新などを実施しました。一方、災害発生時に被害を最小限にするための備えとして、コロナ禍であっても事故総合復旧訓練や避難誘導訓練を参加人数を絞って継続しました。日々の安全確保に関しては、ホームドアの整備や踏切支障報知装置の整備を進めました。今後も常に「事故・有責輸送障害ゼロ」を目指して対策を継続していきます。

「共創136計画」ではもう一つ、選ばれる沿線を目指した方針として、車両や駅トイレの更新を掲げ、南海線24両、高野線30両、鋼索線ケーブルカー2両2編成の車両更新を実施したほか、36駅のトイレの美装化を実施しました。

サービス面では、「ストレスフリーな移動環境の整備」として、海外旅行代理店向け企画乗車券のeチケット化に加え、モバイル決済サービス「Alipay(アリペイ)」「WeChat Pay(ウィーチャットペイ)」を導入しました。

今後は、デジタル技術の活用により、安全・安心で良質な交通サービス水準の維持・向上を図りつつ、業務プロセスの効率化を徹底し、長期的な移動需要の減少に耐えうる事業構造を構築していきます。中長期的には、アフターコロナ、ウィズコロナの時代に求められるお客さまニーズに応え、お客さまに支持される「正しい事業」を展開していきます。また、「南海グループ経営ビジョン2027」の目標達成に向け、沿線価値の向上を図るとともに、定住人口と交流人口の増加に取り組み、「選ばれる沿線づくり」を進めていきます。



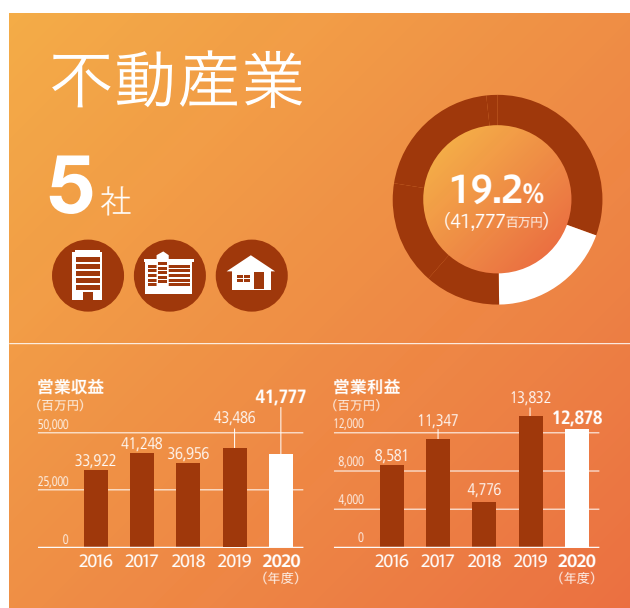
専務執行役員
芦辺 直人

グループ各社の専門性追求と連携によって、 ブランド価値とプレゼンスを向上させていきます

当社グループが経営ビジョンとして掲げている「選ばれる沿線・企業グループ」となるためには、各エリアに密着し、事業ごとの専門性に特化した付加価値の高い商品・サービスを提供していくことが不可欠です。その結果として、お客さまをはじめステークホルダーの皆さまに信頼され、選ばれる存在になっていくと考えています。

2020年度はコロナ禍の厳しい経営環境の中、各種交通サービスにおいて「安全・安心」にでき得る限りの対策を講じたほか、お客さまの利便性と快適性の向上に継続して取り組み、日々変化するお客さまニーズに的確に対応してきました。例えば、バス事業においては、和歌山バスで交通系ICカードによる乗車サービスを開始したほか、熊野御坊南海バスでは定期観光バスなどの乗車券のインターネット販売も開始しました。また、バス車内と切符売場窓口で電子決済サービスも導入しました。海運業においては、和歌山県と徳島県の観光振興に向け、両県内の宿泊施設に宿泊した場合に乗用車などの運賃を半額とするキャンペーンを実施しました。このほか、不動産業、流通業、レジャー・サービス業、建設業などのグループ各社で、お客さまに選ばれる企業を目指したプロジェクトを推進しました。

今後は、グループ各社が専門性を発揮しながら、さらなるサービス品質の向上や従業員の満足度向上に努め、ブランド価値と業界内でのプレゼンスを向上させていくとともに、シナジーの追求、DXの推進、ニューノーマル時代の新しいビジネスの創造・展開を通じて、新たな成長モデルを構築していきたいと考えています。



事業概要

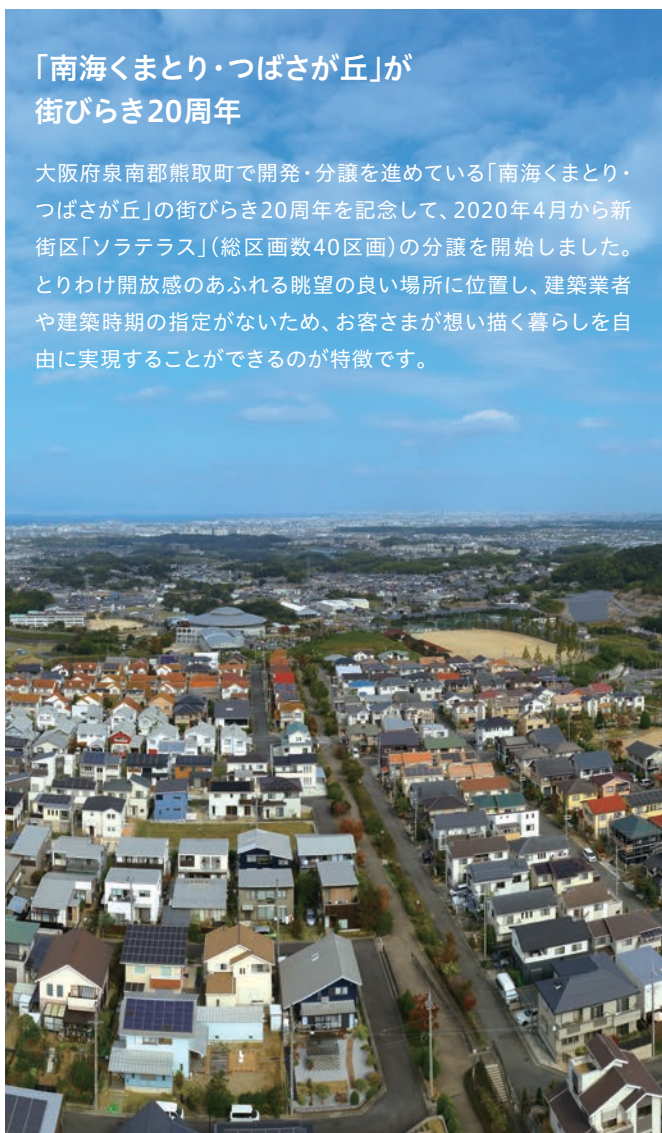
当社沿線や主要駅を中心に、商業・オフィスビル、賃貸マンション、駐車場などの不動産賃貸業を展開するとともに、宅地販売やマンション販売などの不動産販売業を幅広く展開しています。沿線価値の向上やお客さまのより豊かな生活環境づくりに貢献しています。

経営成績

不動産販売業においてマンション販売が減少したことに加え、不動産賃貸業において新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことなどから、営業収益は417億77百万円(前期比3.9%減)、営業利益は128億78百万円(前期比6.9%減)となりました。

「南海くまとり・つばさが丘」が街びらき20周年

大阪府泉南郡熊取町で開発・分譲を進めている「南海くまとり・つばさが丘」の街びらき20周年を記念して、2020年4月から新街区「ソラテラス」(総区画数40区画)の分譲を開始しました。とりわけ開放感のあふれる眺望の良い場所に位置し、建築業者や建築時期の指定がないため、お客さまが思い描く暮らしを自由に実現することができるのが特徴です。



「キーノ和歌山」が開業1周年

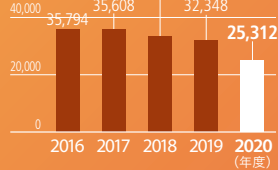
2021年6月、「キーノ和歌山」商業ゾーンが開業1周年を迎えました。コロナ禍でのオープンとなったものの、各種イベントなどを実施し集客を図りました。開業からの1年で約218万人のお客さまにお越しいただき、開業前に目標としていた200万人を上回ることができました。

流通業

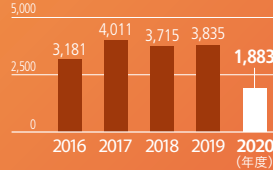
9 社



営業収益
(百万円)



営業利益
(百万円)



事業概要

当社沿線を中心に高感度なショッピングセンター、コンビニエンスストア、飲食店、物販店などの各種店舗を幅広く展開し、まちの活性化に取り組んでいます。また、駅構内の物販店でのノウハウを生かし、駅ビジネス事業の沿線外展開にも取り組んでいます。

経営成績

緊急事態宣言発出に伴う商業施設(なんばパークス、なんばCITYなど)の臨時休館など、新型コロナウイルス感染症の影響により、営業収益は253億12百万円(前期比21.7%減)、営業利益は18億83百万円(前期比50.9%減)となりました。

※ 臨時休館期間にかかる固定費は特別損失に計上

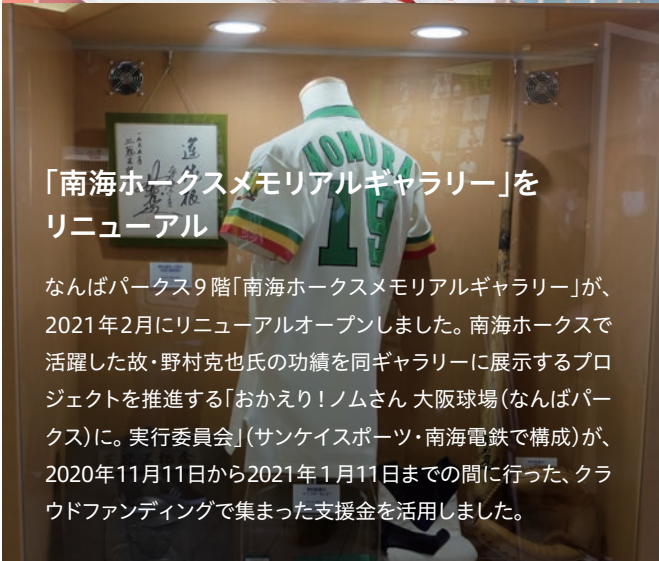
なんばパークスに「リトルおやつタウンNamba」を誘致

2020年10月、ベビースターラーメンの都市型テーマパーク「リトルおやつタウンNamba」をなんばパークス7階にオープンしました。「たっぷりたのしい夢としあわせの提供」をコンセプトに、子どもも大人も楽しめるコンテンツを提供し、多くの方に来場いただいています。



「南海ホークスメモリアルギャラリー」をリニューアル

なんばパークス9階「南海ホークスメモリアルギャラリー」が、2021年2月にリニューアルオープンしました。南海ホークスで活躍した故・野村克也氏の功績を同ギャラリーに展示するプロジェクトを推進する「おかえり!ノムさん 大阪球場(なんばパークス)」。実行委員会(サンケイスポーツ・南海電鉄で構成)が、2020年11月11日から2021年1月11日までの間に行った、クラウドファンディングで集まった支援金を活用しました。



担当役員より



専務執行役員

高木 俊之

「まちづくり」を通じて、 持続可能な社会の実現に貢献していきます

当社は、2027年のありたき姿として「南海グループ経営ビジョン2027」を策定し、「選ばれる沿線づくり」と「不動産事業の深化・拡大」との相乗効果を発現して、沿線を磨いていくこと、すなわちまちづくりに貢献していくことを掲げています。

当社が目指す「まちづくり」とは、地域に根ざす企業グループだからこそできる長期的視点で地域社会に向き合い、さまざまな形で沿線の「暮らす・働く・訪れる」価値を高めるための取り組みを進めることであり、交通・不動産の基幹事業を推進していくとともに、観光や産業振興、起業家支援、環境保全などの地域活性化に資する事項については、行政・企業・地元関係者などとの連携協働を通じて推進していきます。

さて、今回新たに設置した「まち共創本部」では、駅を拠点としたまちづくり・地域活性化に資する取り組みを主導することに加え、基軸の交通・不動産事業を通じた施策と地域活性化策を融合させる、あるいは全体最適化を図っていくこと、すなわち南海グループ全体のまちづくりの中心的役割を担います。

また、沿線活性化に資するさまざまなソフト面での施策を講じるとともに、なんば、泉北ニュータウンをはじめとした沿線でのまちづくりについても、上述の思想を実装し、ソフト・ハード一体となったまちづくり、スマートシティの実現を目指します。

これらを実現するために、地域のニーズや課題を十分に把握し、当社として採りうるべき施策を総動員し、南海グループ一丸となって取り組みを進めていきます。

これらの取り組みの必要性は、現下のコロナ禍を受けて、改めて当社の存在意義として再認識し、「持続可能な社会の実現」に貢献することにより、長期的には「当社の持続的な企業価値向上」につながっていきます。



上席執行役員

二栢 義典

沿線の「暮らす・働く・訪れる」価値向上を通じ 持続可能な社会の実現に貢献していきます

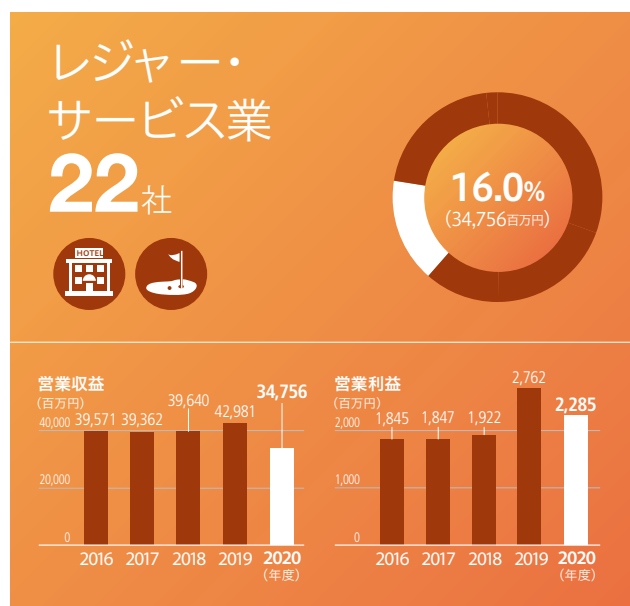
当社の不動産業・流通業は、「南海グループ経営ビジョン2027」の中で、「選ばれる沿線づくり」と「不動産事業の深化・拡大」という事業戦略に基づき、諸施策を展開してまいりました。さらには、その事業活動が、今般新たに制定した当社の「サステナビリティ方針」の重点施策である7つの「サステナブル重要テーマ(マテリアリティ)」の実現に直接資するものと考えております。

2020年度は、地域の方々との共生を目指し、商業ゾーン・ホテル・オフィス・市民図書館からなる複合施設「キーノ和歌山」を和歌山市駅に開業させ、賑わいを駅周辺に広げていく「駅を拠点としたまちづくり」を具現化しました。

また、物流事業では、関西圏における一大物流拠点を目指すための起点として、北大阪流通センター内にトラックターミナル1号棟を竣工しました。館内すべての照明をLEDとし、外壁断熱パネルや人感センサーを採用するなど、省エネ・省資源に配慮した結果、DBJ Green Building認証において「極めて優れた環境・社会への配慮がなされた建物」として認証を取得しました。

一方、新型コロナウイルスの感染拡大によって、在宅勤務の拡大やインバウンド旅客の急減など、当社事業を取り巻く環境は激変しました。こうした中で、我々が果たすべき使命は、社会の本質的な課題に対してこれまで以上に真摯に向き合い、ニューノーマル時代に応じたサービスや新しい価値を追求し、生み出し続けていくことにほかなりません。それが結果として、持続的な企業価値の向上と社会の持続性に配慮したサステナブルな経営につながると信じています。

今後も、「選ばれる沿線づくり」と「不動産事業の深化・拡大」に一層磨きをかけ、長期的視点で地域とともに活性化策や環境問題に取り組むことで、沿線の「暮らす・働く・訪れる」価値を高め、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

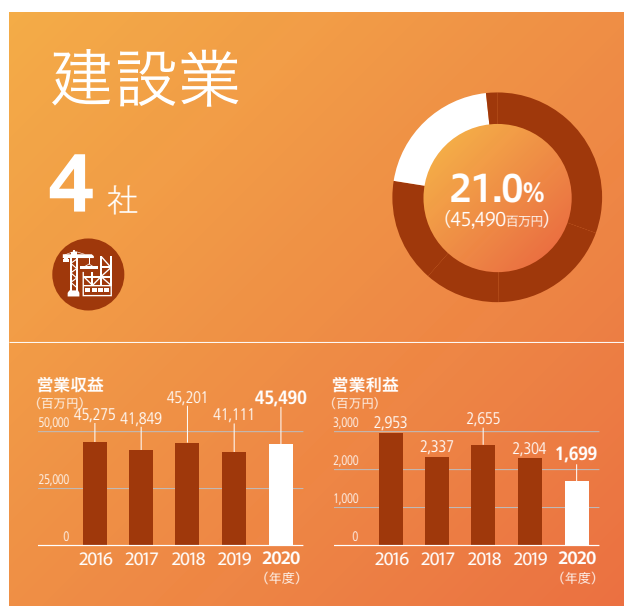


事業概要

旅行業、ホテル・旅館業、ボートレース施設賃貸業、ビル管理メンテナンス業など、お客さまの暮らしに潤いを与える事業を沿線内外で展開し、各事業の集客力向上と活性化を図っています。

経営成績

ボートレース施設賃貸業において、電話投票売上の増加に伴い、歩合賃料収入が増加したことなどにより増収となったものの、ビル管理メンテナンス業において設備工事収入が減少したことなどから、営業収益は347億56百万円(前期比19.1%減)、営業利益は22億85百万円(前期比17.3%減)となりました。

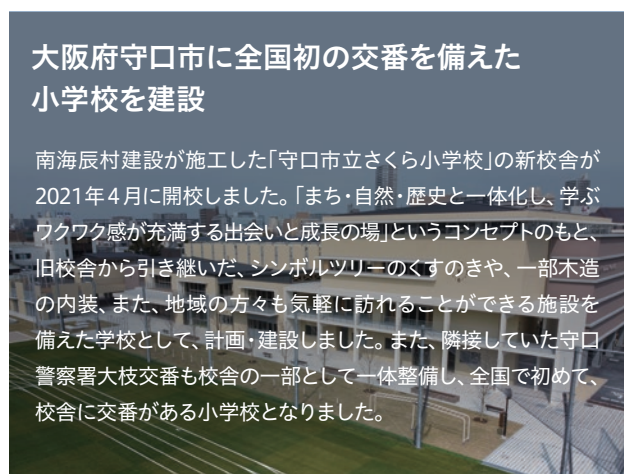


事業概要

南海辰村建設を筆頭に、グループ4社が建設業に取り組んでいます。当社の鉄道関連工事や、日本万国博覧会、関西国際空港などさまざまな建設工事を通じて積み重ねた豊富な経験・ノウハウを活かし、土木・建築・電気など建設工事全般を手がける総合建設業を展開しています。

経営成績

民間住宅工事のほか、ホテル、学校施設などの民間非住宅工事や公共工事の受注活動に注力しました。営業収益は完成工事高の増加などにより454億90百万円(前期比10.7%増)となったものの、営業利益は利益率の低下などにより16億99百万円(前期比26.2%減)となりました。



その他の事業 その他の事業については、営業収益は30億27百万円(前期比13.6%減)、営業利益は2億48百万円(前期比17.3%増)となりました。